

中村栗園 りゅういん 舊水口藩儒。文化二年豊前國中津生れ、明治十四年十一月二十日没（六六―八二）。舊姓片山、諱和、字子臧、通稱片山和藏、中村二郎。別號半仙子、栗翁。帆足萬里、次ついでで龜井昭陽あきひらに學ぶ。篠崎小竹の推舉に據り水口藩儒員となり、藩儒中村介石の養嗣子となる。時局を論じ志士と交はり、藩政に參與。維新後と大参事として藩制の改革に當つた。中村確堂の養父。

著書に『栗園詩稿』（明治十七年十月合章堂）等。